

- リアルタイムハザードマップは、砂防堰堤の整備、土砂移動の監視等のハード・ソフト対策、緊急減災対策時における緊急ハード・ソフト対策等を検討するために、想定火口位置や地形を踏まえた噴火に起因する土砂移動の影響範囲を平常時から想定（シミュレーション）するとともに、噴火継続期等において想定火口位置や地形の変化を取り入れて、実現象をより反映した土砂移動の影響範囲を想定（シミュレーション）するものである。
- 作成したリアルタイムハザードマップは、必要に応じて火山防災協議会等に提供し、市町村長が実施する避難指示等の警戒避難体制への支援となること等を期待する。

<イメージ>

作成の際の入力条件

想定現象	噴火規模
各種条件の設定	施設整備状況

土砂移動の影響範囲の想定

リアルタイムハザードマップ

- ・プレアナリシス型：噴火前に想定し作成
- ・リアルタイム型：噴火継続期等に想定火口位置や地形の変化を取り入れて作成

噴火に起因する土砂災害対策

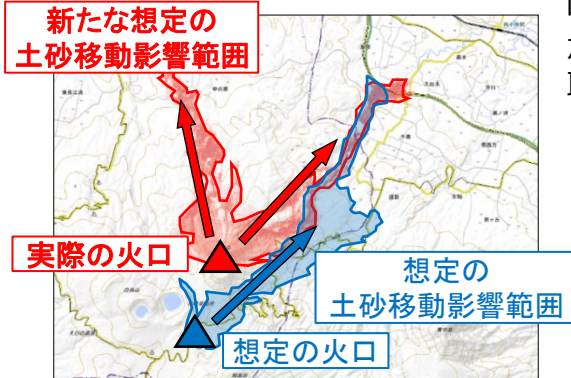
緊急ハード・ソフト対策等の検討

火山防災協議会等への提供

避難指示等の警戒避難体制への支援

リアルタイムハザードマップの活用例

新たな想定
土砂移動影響範囲



噴火継続期等において、火口位置などが想定と異なった場合に、その変化を取り入れて土砂移動の影響範囲を計算

火山防災協議会等への提供

より実効性のある避難等に活用

運用中の火山

16火山で運用中（令和6年3月時点）

大雪山、十勝岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、
吾妻山、日光白根山、草津白根山、浅間山、
富士山、焼岳、乗鞍岳、御嶽山、
阿蘇山、雲仙岳、霧島山、桜島

※今後順次拡大予定で、必要なデータ整備等の作業を引き続き実施